NIE実践報告

1．タイトル：世の中を知り、自分は何をすべきか考えるきっかけとしよう

2．学校名

千葉県市川市立東国分中学校

3．実践者名（代表者名）

佐藤　雅秀

4．学年

第1、2、3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科・300人(全学年)・97人(2学年)

6．単元（本時の学習課題）名

(1)新聞記事から世の中を考える。(2)発展的学習(新聞レポート)　(3)経済について考える(株式売買ゲーム)

7．目標（狙い）

社会で起こっている現実の姿を知り、社会に出てからの自分たちの立場や、人としてなすべきことを考えさせたい。

8．評価の視点

新聞レポートを行った時はどのような記事を選び、そこから事実を正しく読み取れているか、また、そこから何を感じ、自分はどのように行動していきたいかを書かせる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

家庭学習や帰りの会の短い時間での取り組みなので、授業時数に入れていない。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)新聞に親しむ→自由に新聞が読める新聞コーナーの設置と同時に、昼の放送で、その日の新聞記事から生徒が選んだものを読み上げる。
(2)新聞レポート→自分が興味を持った記事から、書かれている事実を読みとり、そこから何を感じたか、自分はどのように考えるかを長期休みに行う。同時に書かれている用語など、わからない言葉も調べていく。上級はテーマを一つ決めてそのテーマに関する記事を集めて考えていく。
(3)生徒全員で行う時事問題バトル→生徒に新聞やニュースに興味関心を持たせるため、全校生徒で時事問題を行う。得点による競争形式とすることで、やる気を出させた。
(4)ハッピーニュースキャンペーンへの取り組み→日本新聞協会が主催しているキャンペーンに参加。(冬休みの課題として)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒の反応として、世の中について知ろうという意欲が高まった生徒が６割をこえた。また、新聞を読むことで読解力がついた、自分の意見をまとめる力がついた、自分の無知を知った、考える力が向上したなどがあった。

12．成果と課題

・時事問題については、よくここまで知っているなという驚くべき生徒が出現した。その子にとっては高得点が励みになったということであった。
・世の中の出来事に対して、興味関心が高まったことや、自分なりの考えをまとめられる生徒が増えた。
・将来は社会の役に立ちたいと考えられる生徒が多かった。